

中海会議 第6回幹事会【概要】

H26.7.29 国際ファミリープラザ（米子市）

議事1 第5回中海会議への報告事項（案）等について

（1）中海湖岸堤等整備に係る調整会議（説明者：国土交通省出雲河川事務所）

【意見等】

■米子市企画部長（副市長代理）

- ・旗ヶ崎の承水路について、昨年度から逆流防止施設、水門設置の工事に着手、来年度末には完成予定と伺っており、お礼申し上げます。
- ・旗ヶ崎の承水路の部分は、内水の排除についても非常に苦慮しており、今後、国土交通省さんの御支援を相談の上でお願いしたい。
- ・今後、斐伊川水系河川整備計画に基づき、短期整備箇所について引き続き事業実施をお願いする。また、短中期の整備箇所についても事業化に向けて検討をしていただきたい。

■境港市副市長

- ・短期整備で渡漁港の護岸堤整備について、順調に進捗させていただきお礼申し上げます。
- ・この事業と並行し、国交省所管の社会資本整備総合交付金を活用させていただき内水対策事業を進めているところ。

住民からすると漁港整備だけでは不十分、内水排除が必要ということで、内水排除と防災避難道路を合わせて10億円の総事業費を予定して取り組んでいるところであるが、国庫補助事業費の配分がH25、26と要望額に対する実際の配分が非常に低いので、進捗に支障が来さないように、確実な予算確保をお願いしたい。

■中国地方整備局河川部長

- ・旗ヶ崎の承水路箇所、内水排除での苦勞について、国と県で排水ポンプ車を整備しているので、緊急対策として要請があれば排水ポンプ車を派遣する。また、情報交換も実施する。
- ・まずは短期箇所の早期完成が第一。短中期箇所については、優先順位を検討し、短期整備箇所に引き続いて切れ目なく工事に着手したい。両県、関係自治体とも調整を図りながら順次進めていく。

（2）中海の水質及び流動会議（説明者：鳥取県生活環境部水・大気環境課）

【意見等】

■米子市企画部長（副市長代理）

- ・森山堤防の開削効果について、本庄水域以外の中海の傾向は開削から5年が経過しているが、現状では開削の影響と考えられる特定の傾向を見出していないと説明をいただいたが（7/9水質流動会議）、開削から5年経過しているにもかかわらず、本庄水域以外の中海については、開削の効果が表れていないと理解してよいか。
- ・開削効果を検証するために、専門家に助言をいただき、今までの調査に加え、新たな調査項目を加えるなどして、開削効果を検証する必要はないか。

■鳥取県生活環境部水・大気環境課長

- ・本庄工区、森山堤防の開削が、中海全体にどう影響を及ぼしているかまでは、今までのモニタリングデータではなかなか判断できない状況。一昨年度はアオコ、昨年度は赤潮等の影響も考えられる。
- ・新たな調査項目というのがどういうものか分からないが、データをきちんと分析しながら対応していきたい。

■安来市副市長

- ・浅場造成事業について、整備予定の安来箇所は安来の日立工場の敷地の隣接地であり、現在でも工場からの雨水の排水のための水路に、吹き寄せによる砂がたまり、高潮の際に大変苦慮している。浅場造成、覆砂に異論はないが、こういう状況があるので、その点配慮願いたい。

■出雲河川事務所長

- ・個別箇所の対応については、個別に状況を見ながら進めていく。

■安倍境港市副市長

- ・中海の海藻刈りによるシステム構築支援事業の件について、3年間にわたって実施してこられたことの効果と、26年度の現在の進捗状況についてももう少し詳しく説明を。

■鳥取県生活環境部水・大気環境課長

- ・42ページ中ほど(2)に成果をまとめている。システム全体で回収コスト、販売単価の見直し、販路拡大等問題はあるが、障害施設の方、漁業者、企業、地域住民、多くの方がかわりを持ち、中海の賢明な利用を推進する効果があったという判断。
- ・海藻を913トン湖外へ排出することにより、中海に流入する生活系負荷量の2.2日分、人に換算して1人1日当たり11グラムの窒素、約17万人分の窒素を湖外に排出できた。
- ・今年度の取組は、引き続き両県で支援することとして、事務手続をとっているところ。

■松江市副市長

- ・藻刈り船が老朽化したので、今年、新しい藻刈り船を入れた。効果を見きわめているところだが、貸し出して広く活用してもらうことも考えているので、また情報提供したい。
- ・また、松江の堀川でも藻刈りが必要になり、小型の藻刈り船を地場企業の技術を活用して開発し8月に試運転の予定なので、関心があれば問い合わせを。

■鳥取県県土整備部長

- ・29ページ図4の各種施策の進捗状況について、道路路面の清掃、道路側溝等の清掃、河川のしゅんせつが目標に達しておらず、島根県と比べて非常に低い、これはどういう指標なのか、なぜ目標に達していないのか、わかれば教えていただきたい。

■鳥取県生活環境部水・大気環境課長

- ・5期計画を立てる際、各項目の計画量を取り各年度の実績を上げた結果、県、市、国交省の合計がこういう形になった。道路側溝の清掃については、計画していたが、現場確認により必要な箇所のみ実施したので点線で上げている。各者、水質浄化を初め努力していただいたが、実績的にこういう結果となった。

■鳥取県生活環境部長

- ・5期計画の鳥取県の道路関係の部分、設定の仕方がちょっと複雑になっていた。事業量を想定

し計画値をとっているが、実際の実施量がそこまで必要なかった。やらなかったというわけではなく、必要が生じなかったということ。実績量と目標量と若干指数が混乱している部分があるので、6期計画の際にはそのあたり工夫したい。

(3) 中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ (説明者：米子市経済部農林課)

【意見等】

特になし

⇒残土確保の課題について、ストック方式も含めて、ワーキンググループで今後さらに検討。

(4) 中海の利活用に関するワーキンググループ (説明者：島根県政策企画局)

【意見等】

■出雲河川事務所長

- ・色々な取組をまとめて進捗状況等の情報共有をしているが、各取組で段階が色々。やっている取組の一つ大きなまとまりとして打ち出していくことができると、中海の利活用がより進んでいるということが伝わる。例えば、ワイズユースの状況として、こういうことがいろいろあるということも一つ。

(以下、意見に引き続いて「**議事2 その他 (ミズベリングプロジェクトの紹介)**」)

- ・水辺の輪っかという意味もある造語をつくり、水辺の利活用をまとまりとして取り組む、そういう捉え方をしていく動きが全国的に始まっている。
- ・中海の利活用でも、まとまりとして全体が非常によく活用されているなというのが伝わるようなことを、考えていければと思う。
- ・河川管理者の立場から河川の規制をどんどん緩和しようというのもなかなか言いにくいですが、そこも含めて利活用をもっと進めていければと思う。

⇒今後取り組みが更に進むよう、引き続き検討していく。

議事2 第5回中海会議の開催(案)について (説明者：鳥取県未来づくり推進局企画課)

【意見等】

特になし。

⇒案に沿って本体会議を行なうことで承認。